

フォトコンテスト受賞作品介绍



『おしゃべりしながら楽しく作業』
北岸 多慶次さん(東近江市)

『おばあちゃんの笑顔』
築山 源太郎さん(野洲市)

『生き物観察会』
丸岡 和広さん(長浜市)

お知らせ

生きものパンザイ
「生きもの」で地域を元気に!
豊かな生きものを育む水田づくり(魚のゆりかご水田)勉強会を開催します。

とき: 2月28日(木)
13:30~16:30
ところ: 水土里ネット滋賀(東近江市林町601番地) 3階研修室
内容: 話題提供
【講師】(株)アミタ 持続可能経済研究所主任 研究員 本多 清さん
【講師】京府立大学 講師 中村 貴子さん
お問い合わせ先:
滋賀県農政水産部農村振興課 TEL: 077-528-3963

編集後記

少しご挨拶が遅れましたが、今年もよろしくお願ひします。
フォーラムの開催にあたり、多くの皆さんにお集まりいただき、盛会裡に終えることができました。ありがとうございました。(A.W)

わたしたちもがんばっています! パート2

美しい目加田をつくる会 代表 小川 喜久雄(愛荘町)

愛知郡愛荘町目加田は、滋賀県東部の湖東平野に位置し、南は東近江市、北は彦根市、東は鈴鹿山系の麓湖東三山、西は東海道新幹線の間に挟まれ、集落総数176戸、農業組合戸数は117戸、そのうち耕作戸数は35戸にまで減少した中規模的な農村集落です。

平成19年度に【老若男女 目加田に住む総ての人々が安心して暮らせる自然環境を次世代に!】をキャッチフレーズに“美しい目加田をつくる会”を立ち上げ、代表、役員を中心に集落全戸が取り組んで活動しています。

活動は、荒れていた排水路の掃除を5ヵ年計画で、農家非農家を問わず作業員を公募して大掃除、農業組合を中心としての濁水流出防止の為に畦塗り、老人会に依頼しての濁水調査等を行っています。

また、区民総出による農道等の草刈、各種団体に呼び掛けて空き缶拾い等、環境整備の取り組みを自己啓蒙の啓蒙も促しながら行ってきました。

子ども会ともタイアップした子どもふれあい農園を開耕し、初年度は米作りで、田植えから成長過程の観察、稲刈りまで、後半は野菜作りにも挑戦し、サツマイモの植え付けから収穫、その後サツ



マイモの試食と農業を身近に感じとれる農業体験をして貰っています。

今後の活動は新5ヵ年として、土地改良が完成して40年近く経過し、水漏れが酷くなってきた用水路を、開水路水利施設の更正工法(PPSライニング工法)を活用し補修していく計画を更に追加しました。その為の研修会・作業方法等を、先日メーカー業者等に現地指導してもらい、講習会をしました。耕作者から水漏れの酷い箇所を申請してもらい、早急に計画書を作成し、来年度からは本格的に補修を実施していく予定です。

大変な部分も多いですが、この制度を活用し集落が、キャッチフレーズ【老若男女 目加田に住む総ての人々が安心して暮らせる自然環境を次世代に!】に近づけるよう、役員一同頑張りたいと思います。



まるごとだより 第24号

にぎわいある農村をみんなで守り育てよう



人・生きものにぎわう農村フォーラム“2012”を開催しました

平成25年1月19日(土)、近江八幡市の県立男女共同参画センター(G-NETしが)で、「人・生きものにぎわう農村フォーラム2012」を開催したところ、まるごと活動組織をはじめ、環境関係団体など300名あまりの参加がありました。フォーラムの冒頭で「にぎわう農村フォトコンテスト」と「田んぼだいすきふるさと農村こども絵画コンクール」の表彰を行いました。

今年度の「にぎわう農村フォトコンテスト」では、笑顔あふれる農村風景などの写真を158点の応募があり、上位3賞の方に地域協議会長より賞状と副賞が授与されました。

また、「絵画コンクール」では、県内在住、在学の小学5年生を対象に募集したところ、857点の応募がありました。そのなかから、知事賞、県教育長賞、協議会会長賞の3賞が表彰されました。これらの作品については、次ページ以降をご覧ください。



フォーラムのメインとなる基調講演では、民俗研究家の結城登美雄さんに講演いただきました。結城さんは、地元学の提唱者の一人であり、全国の地域づくりにおいても活躍されていますが、この度の東日本大震災のあとの復興についても尽力されています。

ご講演のなかで、全国の事例をいくつかご紹介いただきました。一つめ目は、宮城県宮崎町(現在は合併して加美町)の「食の文化祭」。地域の伝統料理の1万人試食会を実施。食事を通して人と人がつながり、コミュニケーションが出来ます。また、そこから食べ物が生まれる場所を見る、体験するというような地域が元気になる仕組みが紹介されました。2つ目は、地域で支え合う食と農の取組。鳴子の米プロジェクトです。鳴子のお米を生産者だけでなく消費者も一緒に支え合う仕組みです。消費者の方が農家を支える仕組みが出来ると、農家もやる気を出して一生懸命米作りに励むようになりました。生産者価格と消費者価格の差は、新しく農業をすることになった若者の支援などにも使われます。駅弁としての発売や農協の施設を活用したおにぎりの販売など、活動がさらに広がっていることなどが紹介されました。



最後に結城さんと嘉田知事により「農村地域の活性化」について、対談いただきました。

最初に嘉田知事から滋賀県の特徴あるまるごと保全の取組が紹介されたあと、東日本大震災での経験を踏まえ、食糧危機の視点から、これからは、消費者も経営資金を出資し、自然災害などのリスクを生産者だけでなく消費者も一緒に背負う仕組みをつくることなどが話し合われました。また、嘉田知事からは、食糧もある農村と水のある琵琶湖をもつ滋賀県は、その強みを生かし大阪などの都市部との連携を強めていきたいといったことなどが話されました。

目次

人・生きものにぎわう農村フォーラム“2012”を開催しました

田んぼだいすきふるさと農村こども絵画コンクール受賞作品介绍

わたしたちもがんばっています。パート1
「せせらぎの郷」(野洲市)

まるごと対策で農村環境の保全と人とのつながりを!(東近江市)

フォトコン受賞作品介绍

わたしたちもがんばっています。パート2
「美しい目加田をつくる会」

発行 (2013.2)

滋賀県世代をつなぐ農村まるごと保全地域協議会

〒521-1224 東近江市林町601番地

電話 0748-42-4806

FAX 0748-42-5574

Email: kyougikai@shiga-nouson-marugoto.com

nouson-marugoto.com

滋賀県世代をつなぐ農村まるごと保全地域協議会

本協議会は、活動組織への支援や、採択手続き、交付金の交付事務などを行っています。書類作成にかかる参考資料や活動事例などの情報をホームページでお知らせしています。

農村まるごと

検索

<http://www.shiga-nouson-marugoto.com/index.html>

Email: kyougikai@shiga-nouson-marugoto.com

田んぼだいすきふるさと農村こども絵画コンクール受賞作品紹介

知事賞



「田んぼの草刈り」
廣岡 和樹さん（甲賀市立大原小学校）

県教育長賞



「たな田の風景」
澤井 愛佳さん（高島市立新旭南小学校）

地域協議会会長賞



「大好きな田なかの風景と豊作の喜び」
倉橋 彩夏さん（大津市立青山小学校）

わたしたちもがんばっています！パート1

せせらぎの郷 代表 堀 彰男（野洲市）

平成19年4月よりまるごと保全事業が実施され、我々須原では「せせらぎの郷」として事業に参画し活動がスタート致しました。

特に、平成20年度より「魚のゆりかご水田プロジェクト」に着手し、琵琶湖固有種の保全再生や排水路に魚道を設置し、水田の生態系保全などに努めて参りました。

また、もっと多くの方々に田んぼに来て、知っていただきたいとの思いから、平成21年度には「魚のゆりかご水田」オーナー制を一般公募し、都市部と農村の交流を通じて地域の活性化を図るため、田植え体験、生きもの観察会、稲刈り体験などを実施して参りました。

近年では、東京、横浜、神戸、大阪からも参加願う「魚のゆりかご水田米」として付加価値の高い米を消費者に直接販売する手がかりができました。

平成23年度にはこのような取組が評価され、「豊かなむらづくり全国表彰事業」の農林水産大臣賞を受賞するに至りました。

平成23年3月11日

の東日本大震災後、東京の八王子市に住む高尾山の環境保全団体から風評被害などについて悩まれている市民の強い要望もあり、どうしても



お米を含め食品を関西圏から買い求めたいとのお話をいただき、魚のゆりかご水田米の全国的なファンが増え始め、今年は田植えや観察会だけでなく、草刈りにまで東京からお手伝いにこられるようになり、我々も10月に東京に出向き八王子市内で「収穫感謝祭」を開催させていただきました。

このように、様々な団体との交流の輪が広がってきているなか、昨年のリオ+20では、グリーン経済が提唱されるなか、上記のNPO代表から滋賀県須原の魚のゆりかご水田の取組が披露されるなど、

一昨年のCOP10に引き続き、全世界的なアピールに繋がっています。

一方、平成24年5月には大阪の吹田市で魚のゆりかご水田米を使用したレストランがオープンし、ここ



でも東京に引き続き10月にレストラン内で「収穫感謝祭」、年末には餅つき大会を開催させていただき参加者（約100人）のなかからも魚のゆりかご水田米の愛用者が増えてきています。

また、県内に於いても大津市内の350戸からあるマンションで魚のゆりかご水田米+新鮮野菜市を11月、12月からスタートし、軽トラック3台分の野菜が1時間たらずで売り切れて大変好評を得ており、今後定期的に開催するよう要望が出ています。

このように「魚のゆりかご水田」の取組がきっかけで都市部との交流が始まりました。農村に住む私たちにとって、都市にお住まいの方々に喜ばれ、地域のまちづくりや活性化に結びつくことは大変喜ばしいことです。

魚のゆりかご水田米も徐々にではありますが、全国的に浸透してきており、今後大いに販路拡大が期待されます。



まるごと対策で農村環境の保全と人と人のつながりを！

東近江市 農林水産課



私たちのまち東近江市は、滋賀県の南東部、琵琶湖の東に広がる湖東平野のほぼ中央に位置し、東西33.3km、南北26.4kmに広がり、面積は約388km²で滋賀

県総面積の約9.7%を占めています。

市の中央には、東部に連なる鈴鹿山系に源を發して琵琶湖に注ぐ愛知川が流れ、南西部には日野川が流れています。この両川の流域には平地や丘陵地が広がり、平野部を中心に緑豊かな田園地帯が広がっています。

市域の22%（山林を除いた面積の51%）を水田が占めており、本市の農業は湖東平野の肥沃な土地により、良質な近江米や麦、野菜、乳用牛、果実などの高い農業生産を誇っています。また、山間部では政所茶に代表されるお茶の産地としても名声を博しています。

東近江市における「世代をつなぐ農村まるごと保全向上対策」の取組状況について、第1期対策では221ある農業集落のうち143集落（対象農用地面積6,624ha）、また平成24年度から始まった2期対策では136集落（同6,462ha）がそれぞれ活動組織を立ち上げて取組んでいます。

本市には、琵琶湖に流入するふたつの一級河川が存するため、水環境を保全すべく特に水稻栽培における代掻き期・田植え期を中心に農業排水の「透視度調査と濁水防止の啓発活動」に力を入れています。併せて、

生物の生息状況の把握として親子による「水路の生き物調査」を実施し、生息する生物の分布図や経年変化についての記録管理を実践しています。また、水環境の保全と生息生物の保護、適正な流水確保のために「水路の泥上げ」を集落ぐるみで実施しています。

この他にも、田んぼや排水路を魚が行き来できるような田園環境の再生を目指した「魚のゆりかご水田」の取組、景観対策と農作業の省力化を目的としたセンチピートグラス

による「グランドカバープランツ」の実施や、地域住民との交流を目的として、景観形成のために植栽したコスモスやひまわり、菜の花の畑を活用し各種イベントを開催するなど創意工夫により様々な取組みをしています。

また、共同活動において必須活動となっている農



【技術研修会（室内）】

業用施設等の点検・機能診断・補修の実践のための技術習得を目的として、12月18日には計4回の技術研修会を地域協議会と東近江支部のご協力を得て実施し、81組織で約180名の参加をいただきました。今後、この研修内容を各地域に持ち帰って積極的な普及と指導を実践いただけることと考えています。

まるごと保全活動に取組んだことで、これまで手のつけられなかった作業や、農業者以外の協力が得られるようになったという声も多く寄せられています。

これからも、市域に存する農地ならびに農業用施設等の資源と農村環境を、世代を越えてより良いかたちで引き継いでいくための保全管理と環境を向上させる地域ぐるみの活動に期待するとともに、今後さらにこの活動が市全体に広がっていくようすべての市民と共に考えていきたいと思ひます。



【生き物調査】



【水路の泥上げ】



【技術研修会（現地）】